

アカデミックキャリア委員会特別企画 働き方改革と共存する男女共同参画医療

AC-1 働き方改革と女性医師のキャリア支援

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座

片岡 仁美

働き方改革は国を挙げて急速に進められている。2016年8月に「働き方改革実現推進室」が設置され、同9月に働き方改革推進会議の初会合、2017年3月に働き方改革の行動計画取りまとめ、2018年6月に働き方改革関連法案が参議院可決・成立した。このように政府が働き方改革を推し進める背景には我が国の労働制度と働き方に関する課題がある。具体的には正規・非正規の不合理な処遇の差、長時間労働、単線型のキャリアパスなどが挙げられる。しかし、その根底にある深刻な問題は超高齢社会と少子化に伴う著しい労働力の不足である。このことに対応するためには「誰でも、事情があっても働ける」社会となって「みんなが働くこと」が必要である。現在のような長時間労働を前提とした働き方モデルで我が国を支えていくことは最早難しいという切羽詰まった状況があるとされる。

働き方改革の波の到来は医療界も例外ではない。医師の働き方は過酷であり、応召義務などの特殊性もあることからこれまで働き方に大きな変革がなされることなく現状が維持されてきた面もある。1週間の労働時間が60時間（過労死ライン）を超える労働者は全職種では14%であるが、医師については41%であり、全職種の中で最大の割合である。このような厚生労働省の主導で医師の働き方改革に関する検討会が発足し、そのメンバーとして会議に参加し、働き方改革を医師にどのように適用していくか、という議論に約2年間参加した。同会議では「緊急的に取り組むべき課題」の6項目を提案した（36協定等の自己点検、既存の産業保険の仕組みの活用、タスク・シフティング（業務の移管）の推進、女性医師等に対する支援、医療機関の状況に応じた医師の労働時間短縮に向けた取組）。6項目の一つに女性医師等に対する支援が入っているのは注目に値する。

一旦就労した女性がライフイベントによって職場を離れる「M字カーブ」は女性医師にも存在しており、そのことが現場の過重労働にさらに拍車をかける要因ともなっている。勿論女性医師にとってもキャリアの中断は望ましいことではない。女性医師等の支援とは、働き方改革と医師のキャリア形成の双方に寄与する重要な方策といえる。岡山大学病院では13年前から病院全体で女性医師支援に取り組み、フルタイム勤務が難しい医師に柔軟な勤務を可能とした制度も12年前から導入している。その結果、現場の女性医師割合の増加、女性医師のキャリア形成への寄与などが認められたほか、同取り組みが職場へもメリットをもたらし、組織文化を変容させることも明らかになった。

働き方改革と男女共同参画は不可分と考えられ、その具体的な方法と今後の方向性についても述べたい。

片岡 仁美

[略 歴]

1997年3月 岡山大学医学部医学科卒業
2003年3月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科修了
2005年8月 岡山大学医療教育統合開発センター 助手
2006年4月 トーマスジェファソン大学留学
2007年4月 岡山大学医療教育統合開発センター 助教
2008年8月 岡山大学病院卒後臨床研修センター 講師
2010年5月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療人材育成講座 教授

[主な専門分野]

内科学、糖尿病学、腎臓病学、医学教育

[主な学会活動歴]

日本内科学会（評議員）、日本病院総合診療学会（評議員）、日本老年医学会（代議員）、日本性差医学・医療学会（評議員）、日本内科学会 Internal Medicine 誌（編集委員）、日本総合診療医学会 Journal of General and Family Medicine（編集委員）